

マジヤール諸々 ハンガリー

ハンガリーという国があることをはじめて知ったのは中学1年の頃である。授業で先生が首都はブタペストといった時、クラスの誰かが「豚がペストにかかったのか」と素っ頓狂な声を上げて大爆笑となった。こんな埒もないたわいのないことが不意に思い出された。

名曲鑑賞の時にブラームスのハンガリア舞曲とサラサーテのツイゴイネルワイゼンを聴いた。子供心に強い感動を覚えたものである。そしていつかハンガリーを訪れジプシー音楽を心行くまで聴いてみたいと思いながら、時の過ぎゆくままに年月が流れて行った。

半世紀を経てチャンスが巡ってきた。1992年と93年の両年にわたり共産圏から離脱した東欧諸国の実情調査を目的に出張を命じられたのである。

ハンガリア舞曲のCDを求め女店員に「ハンガリアダンス」と何度もいったが通ぜず、傍にいたマネジャーから「マジヤールダンス」といわれてようやくCDを手に入れた。この時ハンガリーとは英語読みで、ハンガリーの人は自身をマジヤールと呼んでいることを知った。

ヘレンドの店を目にして店内に入ったクラシックな器なども展示してあり素適な店である。ヘレンドは1826年創業のハンガリーの誇る高級ブランドの陶磁器である。ヨーロッパの貴族社会で珍重され皇帝フランツ・ヨーゼフも愛用していた。ヘレンドの名を一躍高めたのはチャールズ皇太子とダイアナ妃の世紀のご成婚の時に引き出物として配られたのがヘレンドであった。



カロチャの刺繍店

街を散策していて目を引くのはハンガリーの伝統的な刺繍カロチャの店である。真っ白な、あるいは真っ黒な下地に色鮮やかな花を大胆にあしらい刺繍したもので、華やかな雰囲気醸し出し手を伸ばしたくなる。ハンガリーを代表する民族舞踊チャールダーシュの衣装にも同じ刺繍が使われている。



思い出の曲をリクエスト

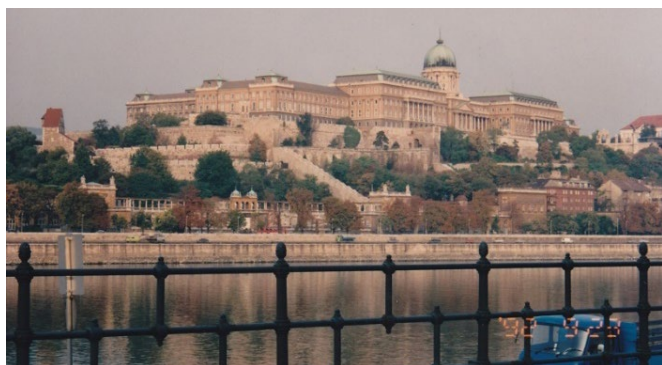
少年時代に聴いたあの旋律から連想されるのはジプシー音楽である。市内のレストランでの夕食の席にはジプシーの楽士団が客のリクエストに応じ、心に浸みわたる素晴らしい旋律を奏でてくれる。演奏が始まるとざわついていた店内は一瞬で静まりかえった。

首都ブタペストはドナウの真珠と称される美しい古都である。欧州を貫き流れるドナウ河（ハンガリーでは＝ドゥナと呼ぶ）は市内を東西に分け丘陵をブタ地区、平地側をペスト地区と二分している。両地区をつなぐ橋は

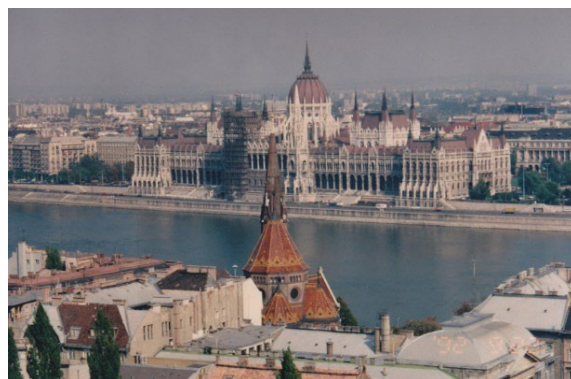
いくつかあるが、王宮の下にかかる重厚ななくさり橋は、ブタペスト最古の橋で1849年に完成している。ブタ地区は丘陵となっていて、王宮をはじめマーチャシュ教会や漁夫の砦などが連なり見どころが多い。丘の高見から下を見るとドナウ河を目の下にペスト地区のゴシック建築や教会の

円蓋などのシルエットが息をのむほど美しく目にうつる。

ハンガリー人の祖先は中央アジアに起源を持ち、ヨーロッパ地域で唯一のアジア系民族であるが風貌はアジア系には見えない。長い年月の間に混血が繰り返されて来た結果であろうか。



ペスト側から見たドナウと王宮



漁夫の砦から見たドナウ河とペスト地区

ハンガリーの起源は896年にマジャール人の7つの部族を率いてこの地にやってきたアールパートが、ドナウ流域を定住の地と定めたことに始まる。定住したマジャール族は955年神聖ローマ軍に戦いを挑み敗北した。そこでキリスト教に改宗しヨーロッパに溶けこむ以外他に生き残る道なしと族長はエステルゴムでキリスト教の洗礼を受け、ローマ法王から王冠を授けられ、1001年キリスト教を国教とする国を打ち立てた。ハンガリー初代国王のイシュトヴァーン一世である。



ハンガリー発祥の地エステルゴム



初代国王イシュトヴァーン



14人のハンガリーの英雄が並ぶ広場

13世紀にモンゴル軍の挑発により国力は衰退する。1241年首都はブタに移った。15世紀にはマーチャーシ王がオスマントルコ帝国との戦いで国民の絶大な支持を得た。マーチャーシが王位にあった22年間は経済や文化面で国を大いに繁栄させた。ハンガリーは16世紀にトルコとの戦いで敗北し、その支配をうける。17世紀にはトルコの支配から脱しハプスブルク家の支配となる。1741年マリアテレジアがハンガリーの女王となる。1867年オーストリアのフランツ・ヨーゼフ1世がオーストリア・ハンガリー両国の皇帝となりいわゆる二重帝国となった。第2次世界大戦勃発により1944年ドイツに占領され、翌年ソ連によってドイツから解放される。1946年王政が廃止されハンガリー共和国が成立したが、1949年ソ連圏に組み込まれハンガリー人民共和国となる。1956年ハンガリー動乱が勃発し、当時日本のテレビでも連日ブタペスト市内をソ連の戦車が爆走している場面を放映していた。発端は共産主義に反発するハンガリー国民に対し、ソ連は軍隊が鎮圧に乗り出したもので多くのハンガリー人が犠牲となった。その後

もソ連軍はエステルゴム近辺に駐留し続けた。1989年やっと他国の干渉から抜け出てここにハンガリー共和国が成立し現在に至っている。

ハンガリーはフランツ・リストという作曲家で天才的なピアニストを生み出している。ドイツ系の父親は宮廷楽師で早くからリストの音楽的才能を見出し、音楽教育に熱心であった。リストが10歳の頃には、すでに公開演奏会を催し大変な評判を得ていた。

リストはハンガリーをこよなく愛し、生涯欧州各地を生活の場としていたが自分の故郷はハンガリーだと自認している。ドイツ語が母国語でフランス語も自由に操れたが、ハンガリー語はほとんど話せなかったという。

リストはやせぎすで端正な容貌を持ち、卓越したピアノ演奏を行い、多くの女性と浮名を流した。またウィーンでピアノコンサートを開いたときベートーヴェンがリストのピアノ演奏を聴き、感動し額にキスを与えたといわれている。

1847年ドイツのワイマールで宮廷楽長を務めた。1861年ローマに住む。1865年僧籍に入る。



イタリアティヴォリのエステ荘の噴水

ローマから1時間にあるティヴォリのエステ荘の噴水の数は大小合わせ500を超え世界一の噴水庭園である。リストは水しぶきを高く噴き上げる水のきらめきをモチーフに1877年”エステ荘の噴水“を作曲した。

リストは各地を経めぐってきたが、晩年主だった活動の場をワイマール・イタリア・ブタペストに据えた。特に幼児期を過ごしたブタペストへの思いは強かった。

64歳となった時故郷ハンガリーに創立された音楽院の初代総長を引き受ける。そして30歳ころから書き溜

めてきた有名な作品ハンガリア狂詩曲を、74歳にして完成させたが、翌年1886年7月31日ドイツのバイロイトで没する。

因みに歌劇王リヒャルト・ワグナーの夫人はリストの娘コジマである。ブタペスト市内にあるリスト音楽院からは多くの音楽家が巣立っていった。20世紀のハンガリーは世界的な音楽家コダーイやバルトークを輩出している。

余談

1) 1992年、93年と自由市場経済へ移行中の東欧三国を訪れた。当時の評価会のメモを見ると宗教もイデオロギーもそして政治も行き過ぎると狂気になるとある。このメモを片手に今その最中にあるウクライナへのロシアの軍事侵攻と重ね合わせてみるとプーチンの狂気のなせる業かとロシアのサガに慨嘆するばかりである。

2) ドナウベントといわれるドナウ河が大きく直角に曲がる場所に、ハンガリーの首都であった古都エステルゴムがある。ハンガリー王国はここから起こったのである。この近くへ日本のスズキ自動車（現地名マジヤールスズキ）が工場進出した。この工場を見学する機会に恵まれた。

マジヤールスズキの敷地は広大である。実はこの敷地はソ連軍がハンガリーを威圧するために駐屯していた跡地でソ連軍が引き揚げた後、スズキ自動車が購入したものである。敷地の片隅に年間18000台の生産ラインが完成し生産を開始したところである。将来的には年間5万台の生産まで持

っていきたいとの説明があった。スズキの評価は高く市民の足として大きな期待を背負ってのスタートであった。当時トラバントが道端に捨ててあるのを時々目にしたものである。

3) ピュリッツァー賞は報道・文学活動・作曲活動に顕著な功績を残した人に贈られる賞で、新聞・出版で財を成したジョーゼフ・ピュリッツァーが1917年に創設した。ピュリッツァーはハンガリー生まれのアメリカ人である。